

事業所名 グループホーム長寿の郷邑久
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年 3月31日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 理学療法士、ガイドヘルパー講師
資格・経験 理学療法士、介護支援専門員
B:現職 介護支援専門員
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、介護老人福祉施設(9年)

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・竹久夢二の生家から約4km、吉井川の下流に接した所にホームはある。昔ながらの農家や神社、田畑の広がる自然の中にあり、季節の移り変わりや白鷺などの生物の営みをホームの内からでも見ることができる。また、川を跨いで病院や郵便局、商店が並ぶ西大寺の町があり、生活にも便利である。
- ・吉井川河川公園で行われる自衛隊の水害救助訓練を見学したり、西大寺観音院の夜店に出掛けたり、町内の誘いで花見や清掃活動に参加したりと入居者は地域の催しに出向く機会が多い。また、ホーム主催の夏祭りやバザー、作品展の展示会には町内会へも回覧で参加を呼びかけ、多くの家族やボランティア、地域の方がホームを訪れるなど、地域との交流が深まっている。
- ・ミニ行事として、ボランティアを交えての節分祭や敬老会、職員による八木ノカ演奏やカラオケ大会、入居者の自宅方面や牛窓へのドライブ、その他気球見物、イタゴ釣り、桜の季節には手作り弁当持参で家族と一緒にゆっくりと昼食を摂り親睦を図る等々、年中ホーム内外でのイベントを企画し、入居者も職員も一緒に楽しんでいる。
- ・職員が定着し、職員同士の信頼関係が築かれており、そのことは入居者に安心感を与え、ホーム全体に落ち着きを醸し出している。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

特に改善すべき点は無い。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述)		
	<p>・代表者は、<年頭の誓い>や<今年の一字>を毎年筆で記し、その内容や意味を職員に説明し、理念の理解と実現を目指している。<今年の一字>は、昨年は『和』、昨年は『誠』、そして今年は『縁』の文字で、『私達は縁あって同じ屋根の下』と書かれている。</p> <p>・ホームは一つの家であり、入居者との職員が抱き合って泣ける関係となる事を理想としている。そのためには、入居者と職員の隔たりを無くして遠慮のない関係を作り、職員は入居者の“介助をする”のではなく“援助をする”意識を持つ事が大切だと考えている。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>・入居者がダイニングに集まり、仲間と一緒に楽しみを持って過ごせる雰囲気作りを心がけている。また、入居者それぞれが自分から要望を出せるよう言葉かけにも配慮している。</p> <p>・入居者一人ひとりの生活パターンを大切に、その人らしく過ごせ、好きな場所で好きなことや得意なことができるように支援している。喫煙については、他者の迷惑とならないように配慮し、喫煙所を設けてゆっくり楽しんでもらっている。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述)		
	<p>・入居者一人ひとりの能力や経験を生活場面で活かせるように支援している。習字、俳句、折り紙、籠作りや、農作業等、得意なこと・好きなことが楽しんでできるように働きかけ、見守っている。</p> <p>・管理者・職員は、居室は入居者一人ひとりの家と認識しており、訪室の際にはノックをして必ず許可を得てから入っている。また、入居者が居室にいる間は無断な訪室を避け、プライバシーを侵害しないようにしている。</p> <p>・個人の情報を他に漏らさないように注意し、書類は管理室(事務所)内の鍵の掛かる所に保管している。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述)		
	<p>・より良いホームにするため、管理者は『改善提案書』で職員に意見を求め、サービスの質の向上に努めている。また、職員の処遇もサービスの質に影響すると考え、不定期に職員一人ひとりと面接を行うなど、職員との連携を図って信頼関係を築き、第2の自分の家と思って働ける職場作りを力を入れている。</p> <p>・ヒヤリハットは直ぐに回覧して周知を徹底し、対策を検討して今後のケアに活かしている。</p> <p>・介護日誌に衛生チェックの項目を設け、食材やまな板等の安全性についても常に意識している。</p>		